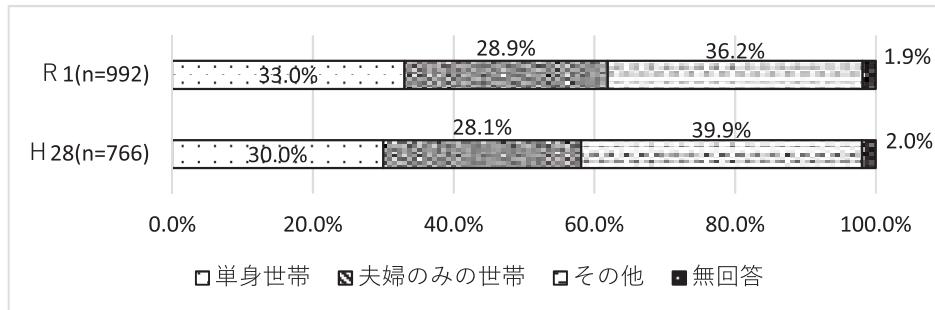


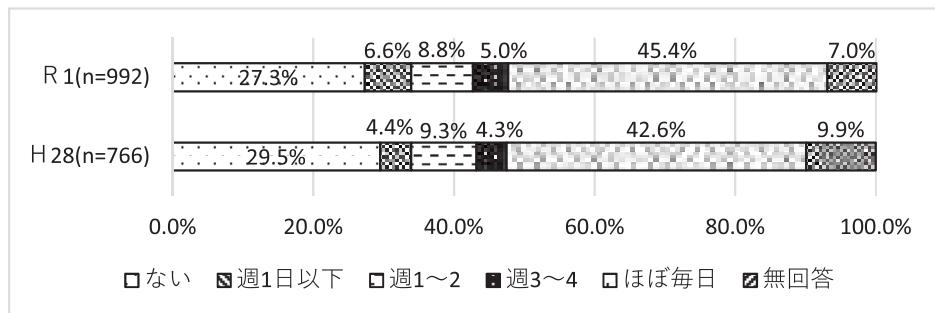
【在宅介護実態調査】

(1) 基本調査項目

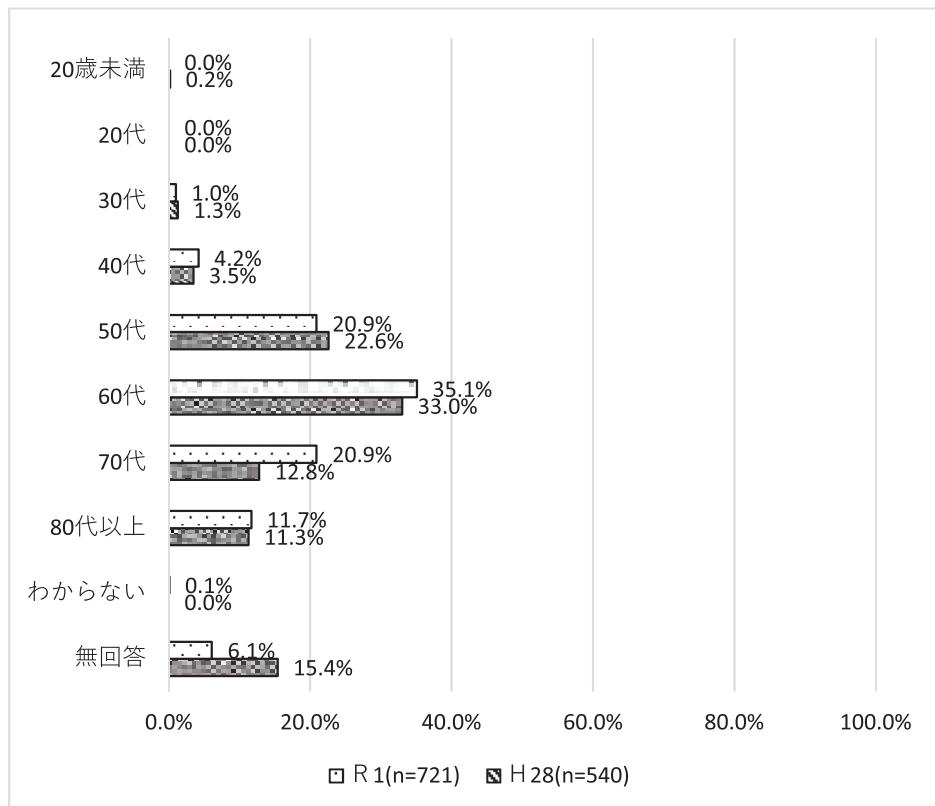
①世帯類型



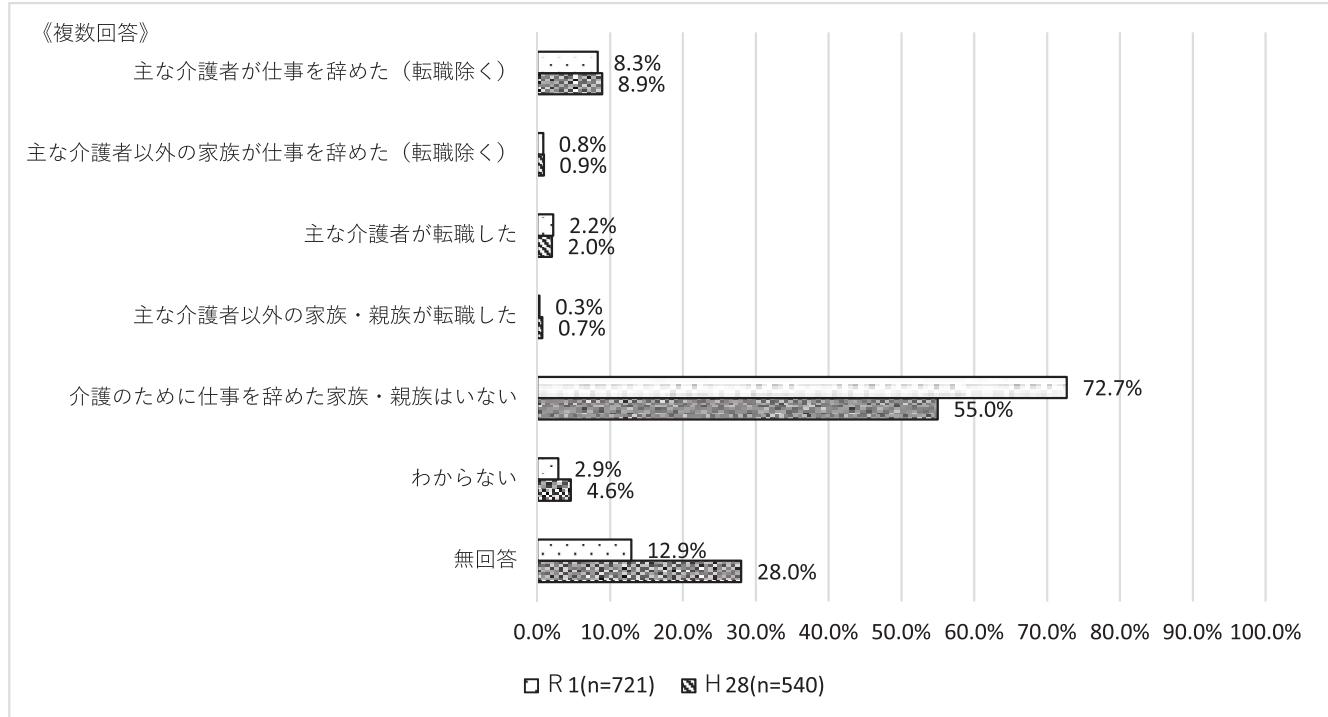
②家族等による介護の頻度



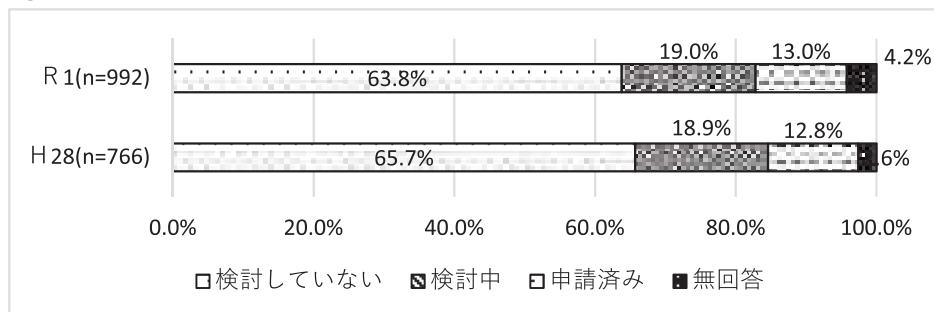
③主な介護者の年齢



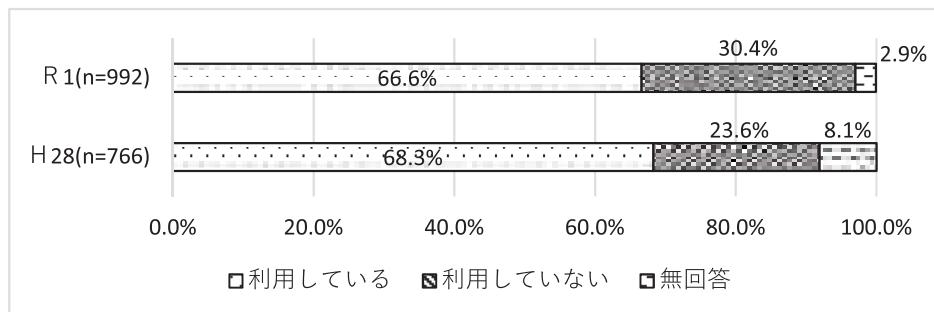
④介護のための離職の有無



⑤施設等検討の状況

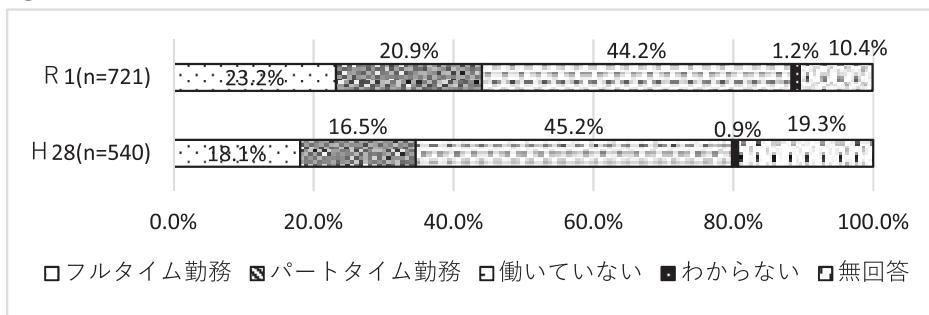


⑥介護保険サービスの利用の有無

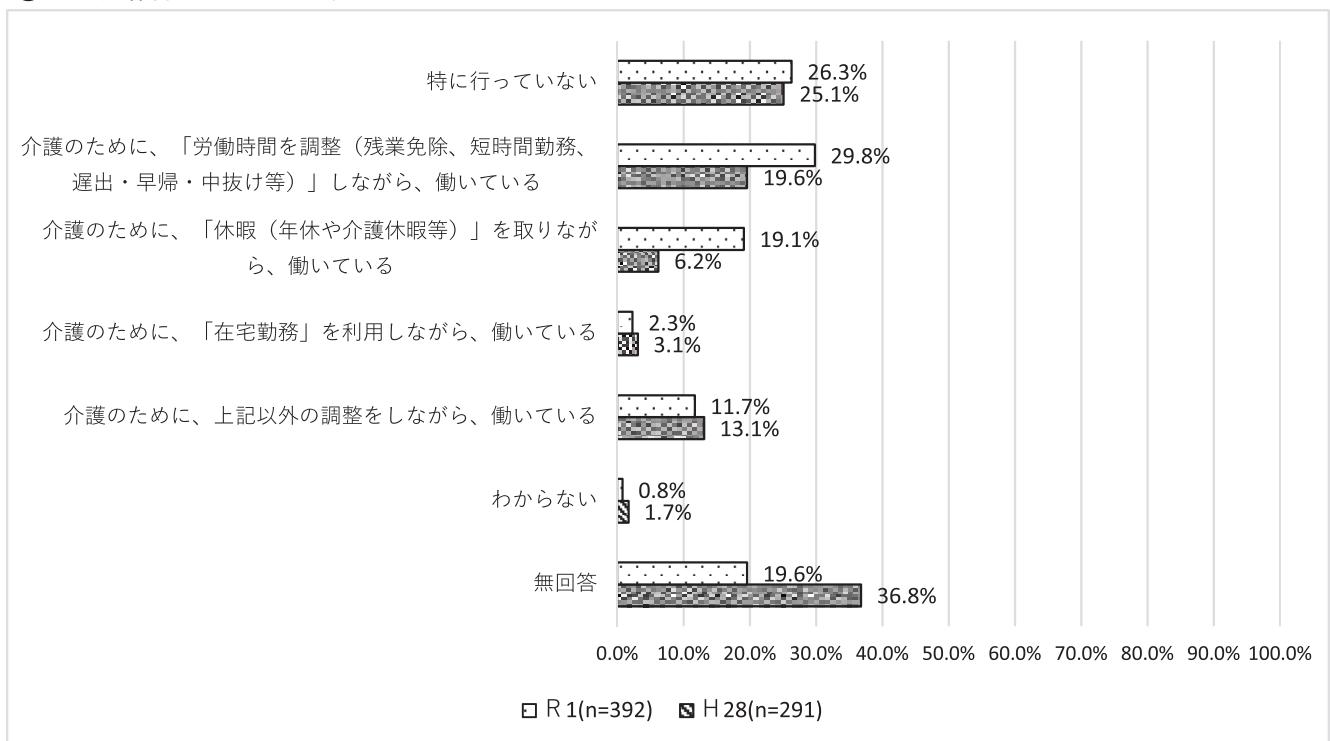


(2) 主な介護者の調査項目

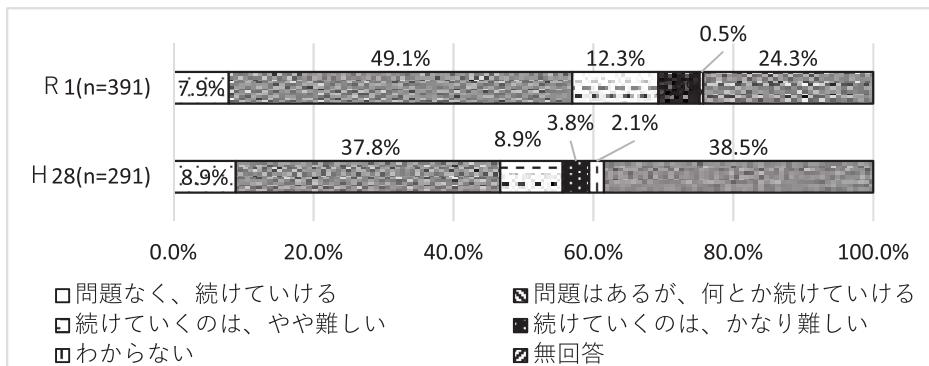
①主な介護者の勤務形態



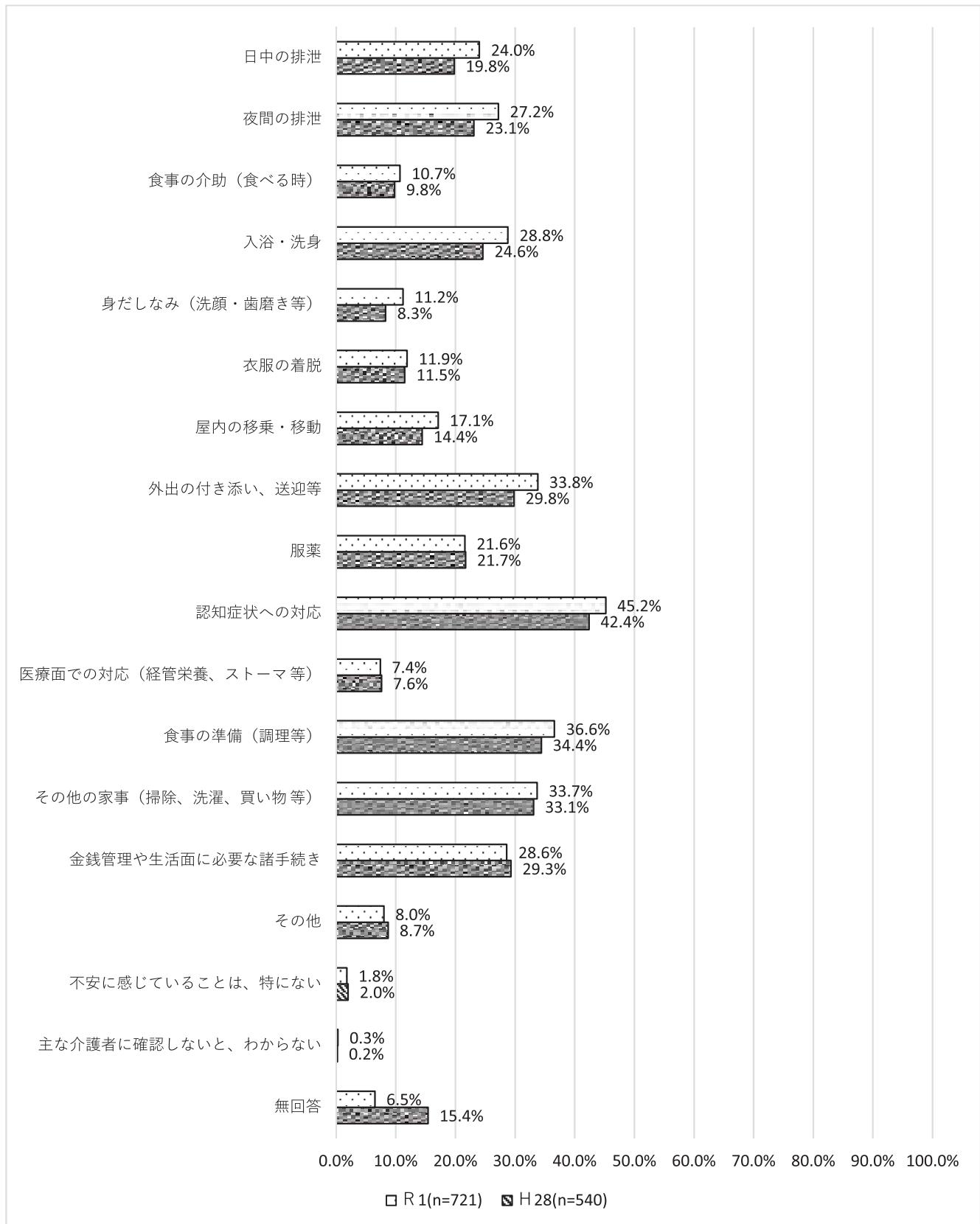
②主な介護者の働き方の調整の状況



③主な介護者の就労継続の可否に係る意識

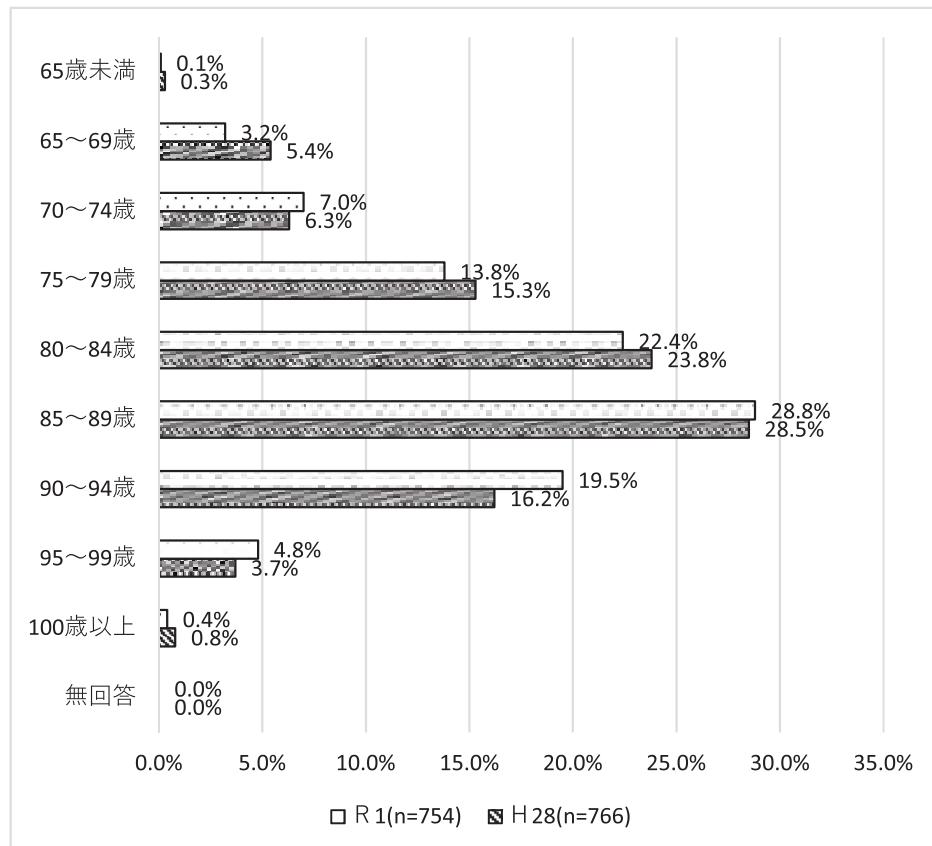


④今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護(複数回答)

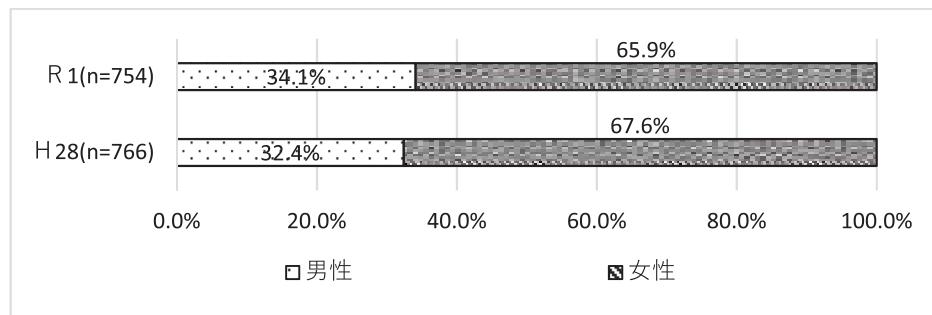


(3)要介護認定データ

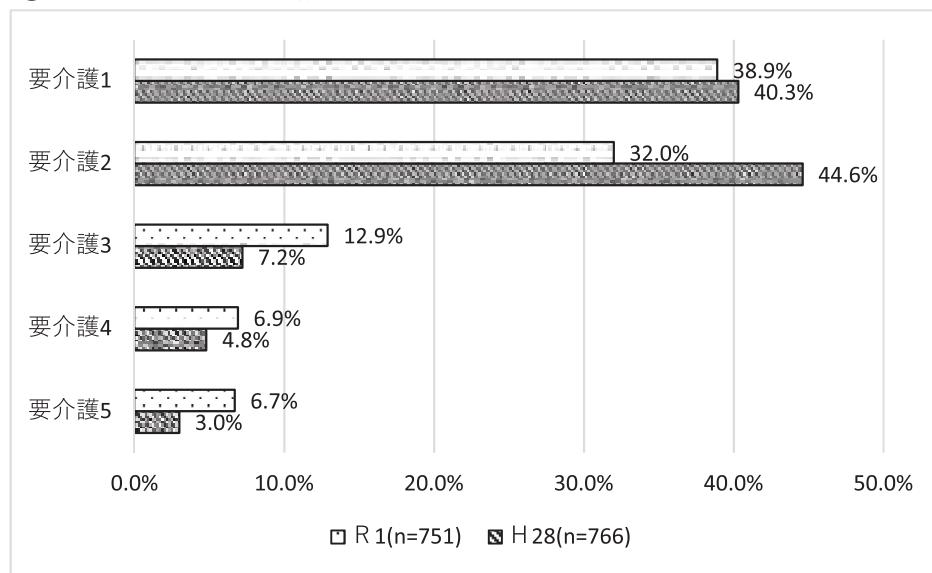
①年齢



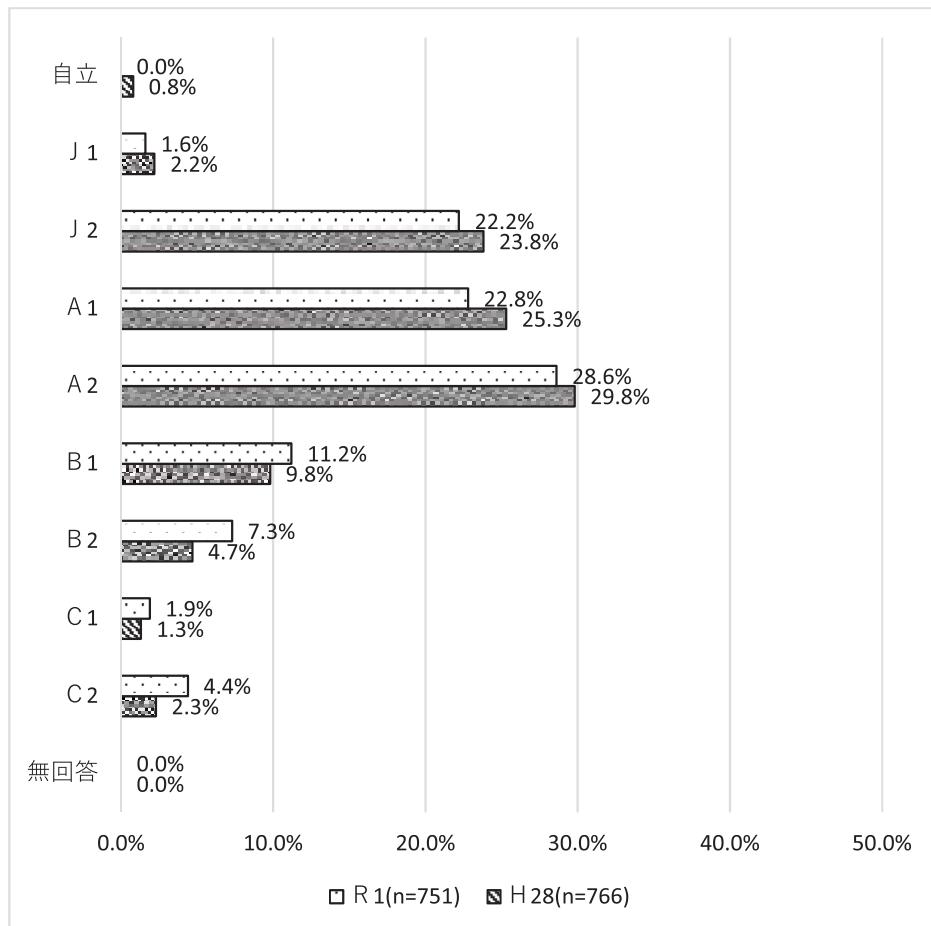
②性別



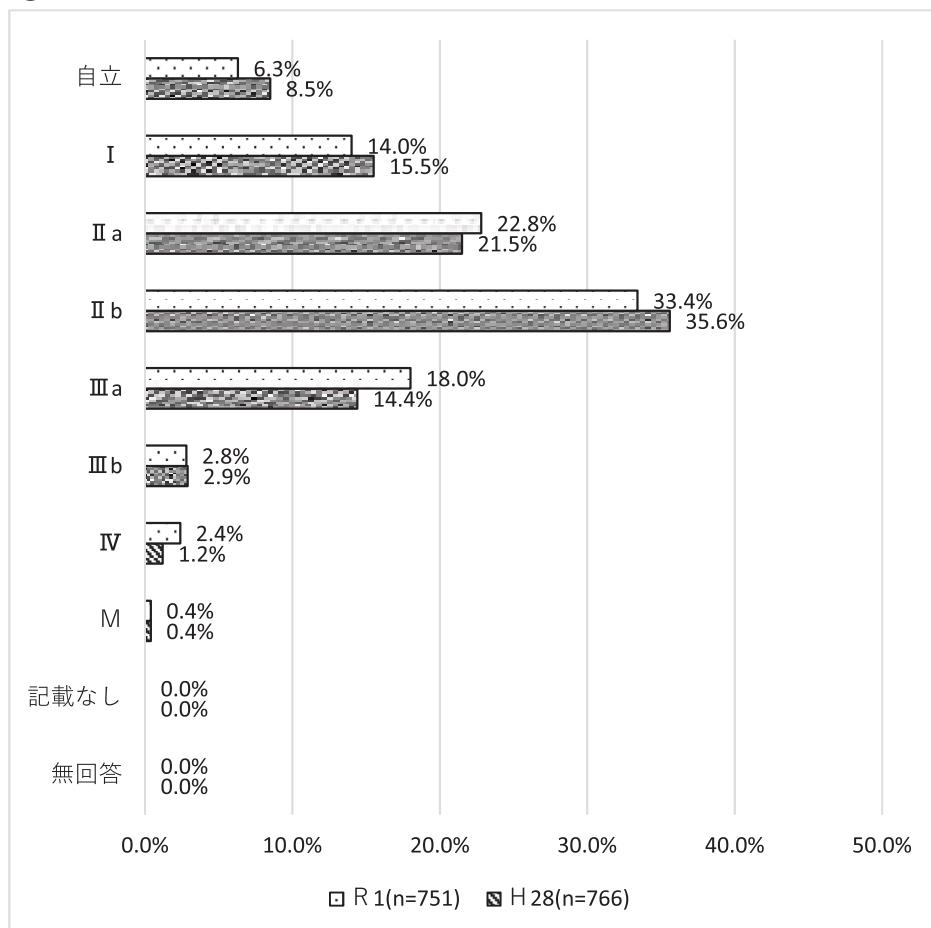
③二次判定結果(要介護度)



④障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)



⑤認知症高齢者の日常生活自立度



(4)介護保険制度に対するご意見

◆家族介護に関すること

- ・介護者が働くことが困難な状態であり、改善の方法がわからない。
- ・老々介護状態でいつ倒れるのか不安。
- ・現在介護者の私、80歳を超しており、もし倒れたりした場合、介護保険で2人どこまで見てもらえるかという不安はあります。
- ・子供が遠方で働いており、すでに家族もおり、日々どうすべきか考えております。どうすべきが一番幸せなのかわかりません。
- ・認知症が進行している模様で気が抜けない。2人世帯のため終日介護を必要として気が抜けない。
- ・単身でありますから全介護が必要ですので、引き取って介護しています。毎日デイサービスが利用できているので安心して働けています。ありがたい制度です。急な出張等、預けるところがない現状は厳しいです。公的援助があり、とても助かっていますが、高齢化社会へ向けて今後、私たちの世代が元気でいることが大切であると痛感しています。
- ・認知症の親の介護を一人でしていますが、本当に大変です。単身世帯なので夜の生活援助や夏・冬の冷暖房の援助が難しいです。熱中症や火傷、火事など、常に不安がつきまとい、たびたび安全面の確認を行っています。疲れます。希望すれば安心して生活できる場の確保ができるようになればと思います(入所・入居を希望してもほとんど空きがなく、待っている間に介護度が上がり、また、申込先を変更しなくてはならなくなり、さらに入所することが困難となります。介護者の負担は大きくなるばかりで、精神面でのしんどさが増します)。
- ・要介護者の居住環境が悪く、主に介護している姉弟間で意見が違い、十分な介護ができていない。お互いにストレスを感じながら介護をしている。いわゆるごみ屋敷であるが、同居している介護者が主導しているため、手伝う介護者は意見できない。相談する窓口はないのか。
- ・介護も大変ですが、それまで本人がしていた農業や家事、地域や親戚づきあいをすることが大変です。

◆仕事に関すること

- ・現在の主な介護者が介護不可能になった時、次の介護者が介護離職せざるをえない可能性はあります。
- ・働かないと介護をしている私自身の老後の生活が成り立たなくなります。また、正社員からパートに変わったため、私自身の将来の年金が増やせません。親を何とか介護し終えた後の生活の見通しが立ちません。社員として働きながら介護できる仕組みが欲しいです。
- ・介護の状況を見ながら、フルタイムから短時間勤務への検討が必要になることも念頭に、サービスの利用を考えていきたい。

◆介護認定に関すること

- ・介護認定にかかる日数を短縮してほしい。
- ・1年間ほぼ毎日介護に追われ、日々進行していく認知症と向き合ってきました。ヘトヘトになりますながら、要介護1の限度額も上限いっぱい使わせていただいていますが、区分変更を申請しても「長期間にわたり要介護状態に変化がないと考えられるため認定の有効期間を36か月間とする。」という決定でした。きつい言葉です。たとえば食事の場合、食べることすら忘れて食事を自分でとることができなくとも、「目の前に配膳すればおはしで食べる」。これは自立なのでしょうか。「自立・半介助・全介助」の判定基準は不透明です。食事も、着替えも、排せつも声を掛けたらできますが、声を掛けるために24時間誰かがそばにいなくてならないのは、全介助と同じです。とても疲れています。
- ・平成30年4月に要介護度2の認定を受け、平成31年5月要介護度2の認定を受け、次の認定は34年まで。家族としては確実に悪くなっているのに、毎年認定の確認をしてもらえないか不安でしかたがない。

◆ケアマネジャーに関すること

- ・こんなときはどこへ何を相談したらよいか、わからないことだらけですが、ケアマネさんから色々とアドバイスをいただき助けてもらっています。
- ・ケアマネによって受けるサービスが変わっている。具体的な提案をしてくれたり、してくれなかつたり。これからは在宅の時代になると思うので、サポート体制の強化を望む。
- ・ケアマネジャーのサービス提供は適正なものか、必要でないサービスまでも提供していないか。今一度見直す必要があるのではないか。

◆居宅介護サービスに関すること

- ・難病でも受け入れてくれるデイサービスなどほしい。
- ・認知症に対してもっと手厚いサービスを！
- ・ヘルパーの方にお世話になっておりますが、前のヘルパーの方の時は栄養剤の空ビンを地域の捨てる場所に持つて行って下さいましたが、今は隣の朝出勤する嫁さんに頼むよう言われています。福祉社会の活動にどうすれば幸せな老人社会になるのか保育所に勤務したものとして、どうあるべきなのかと考えさせられている今日この頃です。
- ・介護をしてもらう人の立場に立って制度が作られていない。ヘルパーさんなどは規則などにもしばられて、親しみを持って接することができず、人間関係がうまくいかない。

◆施設サービスに関すること

- ・特別養護老人ホームに入居したいが、中々、入れない。
- ・介護保険料を払っているのに中々施設に入れない。在宅での介護には無理がある。兄弟がいても近くに住んでいるものがほとんど全部を引き受けなければならない。長生きは良いが、両親とも介護が必要であったり、夫の両親も介護が必要だったりする。市民が必要な時に全員入れるような大きな老人介護施設を作つてほしい。
- ・介護保険は利用させてもらつてありがとうございます。しかし、施設に入所希望をしても入れなかつたり。老々介護、認知介護、親子であつても体力、精神的負担が大きく、ストレスを抱え、病気になり共倒れ状態になりかけていますし、介護保険だけでは軽減できない状態です。
- ・在宅での介護は正直無理がある。介護保険料を支払つていても、中々必要な時に施設に入れない。数も足りないし、一度入つたらなかなか空かない。舞鶴市で大きな老人介護施設を作り、舞鶴市民が安心して老後を過ごせるようにしてほしい。

◆ショートステイに関すること

- ・ショートステイの利用をお願いしているが、空きがないとのことで、ずっと待っています。男性用ベッド数が少ないため、難しいとのことでした。利用料割高の個室でさえ空きがなかなかない。
- ・ショートステイの利用について、介護者は急な入院でその間のショートステイをお願いしましたが、「3か月前からの予約でないと空きが利用できない。」とのこと。結局直前に空きができる利用できましたが、このような急にどうしようもないときに利用できないのは制度としておかしいと思います。

◆医療に関すること

- ・病院は入院して3か月で早く退院してほしいと言われるし、家で介護するのは大変なのに施設は入ることができないし、要介護2とか3とかなら受け入れるところはすごく少ない。全てが介護者の負担になる。特に病院では「在宅」、「在宅」とずっと言われる。年を取つて入院したら歩けなくなり、それで一人暮らしもできないのに言われ続けるのは納得できない。介護者は仕事を減らしていくしかなくなる。ほんとに在宅で大変な人がどれだけいるか、アンケートを書く暇もない人がたくさんいるのが現状じゃないだろうか。
- ・在宅介護ができない。介護者自身が介護される年齢になつてゐるのに、まだ働いて要介護者の費用を捻出しなければなりませんし、現在入院中で年間100万円を超えて、金額が負担となって重々しくのしかかってきます。老人の人口が増え続けるためと思われますが、病気で回復見込みができないようであれば延命治療はやめて安楽死も認めることを行政でも検討していただきたい。

◆利用料に関すること

- ・今まで何十年も保険料を払つてきたのに、今介護保険を使う立場になつたら結構高い。どんな利点があるのかな。
- ・自己負担分をこれまでより大きくしないでください。
- ・国民年金では十分な介護を受けることが難しい。施設入所もできない。
- ・年齢とともに介護の必要性が高まると思いますが、介護保険負担割合の2割、3割負担は大きく、施設の利用等金銭面に不安あり。高齢者の介護制度見直しを願いたい。

◆介護保険料に関すること

- ・介護保険料が高額なので月々の支払いが大変です。
- ・要介護者が将来増加傾向にあると思われるが、年金生活者にとって、介護保険料の増額は、大変厳しいと思う。

◆介護保険制度に関するここと

- ・種類が複雑でたくさんあり、理解するのに時間がかかる。
- ・制度そのものの意味が分かりづらい。したがって、利用する場合にどこへどのように申請すればいいのかもわからず、利用できるにもかかわらず利用していない方も多いいると思われる。もつと末端までわかるような広報を行るべき。
- ・高齢だけど、介護保険の恩恵をもらえない。高額払っているのに、元気だと何も恩恵がないのは、少し考えるところがある。高齢で一人暮らしということで、何か恩恵があれば本人も介護者も元気が出ると思う。
- ・この調査の趣旨からすると、介護のために仕事を辞めたかどうかに絞っていますが、妻に関しては、大阪から舞鶴市に転居していますから、仕事を辞めた以上の犠牲を払いいました。介護保険制度はお金のある方は使えるかもしれません、貧困世帯独居老人では、使えない面が多いと思います。
- ・老老介護に伴う不安が一番です。自宅で過ごせるようにしたいと思うが、今より症状が悪化し、それが長期にわたると思うとどうするのが一番良策かわからない。自分が元気にいられる間は一緒に生活をしたいと思う。いざというときに力になってくれる制度であってほしい。

◆その他に関するここと

- ・政府以下、福祉に一所懸命でお金もかかり、赤字とかどうなるのかなと思うと不安です。
- ・今何とか介護できっていても、この先老人たちが増えていき、保険料も高くなり、介護施設に入所できない人が増えて、どんな状態になるのか不安です。
- ・今後、高齢化は進み、介護者の年齢も上がり、負担はどんどん大きくなる。市として、要介護者を受け入れる施設なり、介護人を増やしていくかないと、先に介護者が倒れて市を支えていく経済力も減っていくよう思う。
- ・介護関係スタッフの方々の働きには頭が下がります。財政が厳しいことは周知の事実だと思いますが、介護に携わる方々がやりがいや誇りをもって働けるよう望みます。
- ・介護保険制度、とてもありがたく、いい制度ができたと思っていますが、2025年問題ではないですが、介護人材不足が叫ばれています。一因の最たるものは、給料が安いのが一番ではないかと思います。保険料が上がってもいいので、介護人材の確保のためにも、また、大切な仕事なので、介護職の地位をもっと上げていただきたい。
- ・病院から家庭へ。でも、ヘルパーさんが手助けしてくれても、家庭での介護や見取りは大変な作業です。なぜなら、「病気で死ぬことのできない」、「老衰でしか死ねない人がいる」ということはどうすることもできません。特養に入ることのできない人がこれからも増え、家族の負担は激しくなっていくのです。介護職に就く方の給料や待遇が良くなることを願っています。
- ・介護保険があるおかげで自宅と実家を行き来しながら介護をすることができます。ありがたいです。
- ・現制度によるあらゆる面のサービスを受けており、非常に満足しております。